



## 幼保小の架け橋



架け橋期の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる重要な時期です。子どもたち一人一人が未来に向かって生き生きと生活できるよう、一緒に考えていきませんか。

「幼保小の架け橋プログラム」は、一人一人にしっかりと学びの基盤を育むために、**学びの連続性・一貫性を確保**することを目的としています。どこでどんな力を育むのかを**架け橋期(5歳児から小学校1年生の2年間)のカリキュラム**の中で、明確にしていきます。

### これからの幼保小接続 ～ 幼保小の架け橋プログラム ～

子供たちにしっかりと  
学びの基盤を育む!

|      | これまで  | これから                           |
|------|---|--------------------------------|
| 目的   | 小学校への順応   | 学びの連続<br><small>カリキュラム</small> |
| 内容   | 交流活動  | カリキュラム編成                       |
| 期間   | 数か月<br><small>スタートカリキュラム<br/>いわゆる<br/>アプローチカリキュラム</small> | 2年(架け橋期)                       |
| 実施単位 | 施設単位  | 地域単位<br><small>体制</small>      |

まずは、子ども同士の交流から始めましょう(体制づくり)。交流を通じて、子ども同士や先生同士の関係が築かれている校区では、**カリキュラムの編成**に取り組みましょう。



**是非、参考にしてください!**

動画『遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽”』  
資料『幼児教育と小学校教育が つながるってどういうこと?』  
(文部科学省作成)



令和6年度第1回幼保小接続推進研修会  
文部科学省 初等中等教育局幼児保育課幼児教育視学官 横山真貴子氏 資料より

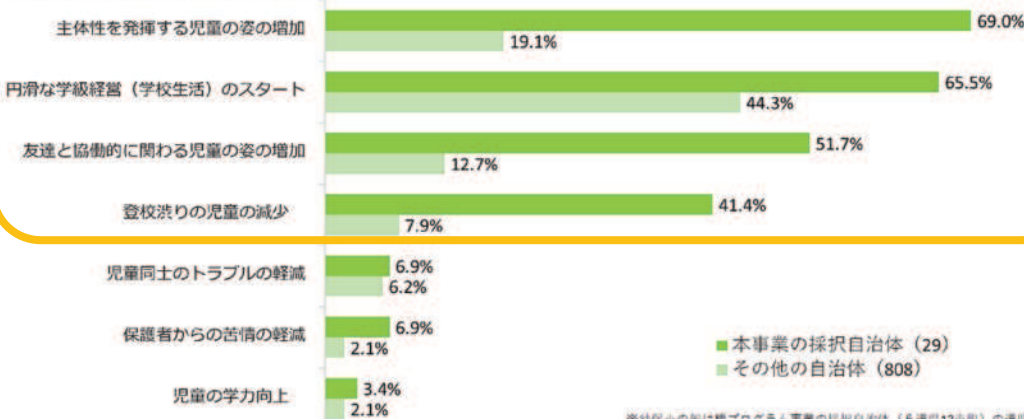
文部科学省の事業で架け橋期のカリキュラムの開発等に取り組んだ校区では、「**小学校において入学当初の指導方法が変わり、子どもが主体性を発揮する姿がより見られるようになった**」などの成果が見られています。

### 幼保小の架け橋プログラムの成果 (幼保小の架け橋プログラム事業におけるアンケート調査結果より)

別紙4

Q. 幼保小の接続に取り組んでいる中で、改善された小学校(学級)の課題があれば、当てはまるものを選択してください。(当てはまるものを全て選択)

#### 【改善された小学校の課題(令和5年度)】



※幼保小の架け橋プログラム事業の採択自治体(6選13市町)の選定においては、選定の回答及び連携市町からの回答を「採択自治体」として集計している。



園と小学校でお互いの保育・教育、子どもの姿を見て語り合い、指導を改善・工夫したことで、見られた成果です。指導の改善・工夫の内容はカリキュラムに可視化していきます。

# 開発の実際 架け橋期のカリキュラムの開発

令和5・6年度幼保小接続推進リーダー育成事業実施校区の若桜学園小学校・わかさこども園の架け橋期のカリキュラムの編成の様子を紹介します。

**期待する子ども像**  
令和5年度の研修で、  
学園と園の全職員で協議。

若桜町の期待する  
子ども像は、0歳から  
15歳までです。

**育みたい資質・能力**

保育体験や子ども同士の交流で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりに子どもの姿を出し合い、期待する子ども像につながるものを、3つの資質能力に整理して記載。

育みたい資質・能力で架け橋期  
2年間の具体的な姿を記載します。

| 共通の視点として考えられる項目(例)                | 4月  | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----------------------------------|---|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 期待する子ども像(めざす子ども像)                 | ねばり強くチャレンジし、自信を   |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 育みたい資質・能力                         | <p><b>知識及び技能の達成</b></p> <p><b>思考力・判断力・表現力等の達成</b></p> <p><b>学びに向かう力、人間性等</b></p>  |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 遊びや学びのプロセス                        | <p><b>遊びや学びのプロセス</b></p> <p>保育体験や子ども同士の交流等で見られた子どもの姿を記載。</p>  |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 園で展開される活動/小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等 | <p><b>園で展開される活動/小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等</b></p> <p>園と小学校で活動内容が似ているもので交流を計画。期待する子ども像に近づくために、どのような活動がよいのか。園と小学校のつながりを考えた活動・単元とは…。</p> |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 指導上の配慮事項(先生の関わり、環境の構成)            | <p><b>指導上の配慮事項(先生の関わり、環境の構成)</b></p> <p>保育体験や子ども同士の交流で見られた先生の関わりの良かったところ・改善点を協議し、期待する子ども像とのつながりを意識して記載。</p>                         |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 子どもの交流                            | <p><b>子どもの交流</b></p> <p>ねらいを明確にもち、見通して計画を立ておくことで、資質・能力を育み、子どもの学びをつなげる。</p>  |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 評価                                | <p><b>評価</b></p> <p>カリキュラムを作成するだけでなく、子どもの成長を確認し、その姿をもとに指導を振り返ること(評価)や、次年度以降、実践・協議した内容を見直し、修正・加筆すること(改善)が大切です。</p>                   |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 職員の交流                             | <p><b>職員の交流</b></p> <p>わかさこども園と若桜学園小学校では、本年度、年長児と1年生との交流(3回)及び夏休みの保育体験を実施しました。交流や保育体験の打合せ、振り返り等で協議したことをカリキュラムに残していきました。</p>         |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |

わかさこども園と若桜学園小学校では、本年度、年長児と1年生との交流(3回)及び夏休みの保育体験を実施しました。交流や保育体験の打合せ、振り返り等で協議したことをカリキュラムに残していきました。



カリキュラム開発に先行・並行し、幼保小の先生が**共通理解**を深めるための**公開授業・保育及び合同研修**を実施することが大切です。  
⇒カリキュラム作成のためには、相互理解の基盤が必要  
**子どもの姿を語り合い、相互理解を深めることからスタート**

**若桜学園小学校の先生方の声**  
単に交流にとどまるのではなく、互いのカリキュラムが接続するように協議・検討することで、意図的に指導にあたることができ、子どもの成長を感じることに繋がった。来年度の初めに年間の流れを共有する場をもち、カリキュラムを基に連携を進めていきたい。

各学校で、年長児の引継ぎの会の実施等、新年度を迎える準備が本格化していることと思います。3月中には、園から小学校・義務教育学校へ要録の写しが送付されます。要録から、一人一人の育ちを確認し、園で育まれた資質・能力が小学校で発揮できるように指導を工夫していきましょう。